３．２　柳川市

3.2-1　柳川市の地理と概要

福岡県柳川市の概要を表-3.2，周辺地図を図-3.5 に示した．

表-3.2：福岡県柳川市の概要

管轄する自治体	福岡県柳川市		
面積	76.90　㎢	人口	74539　人
交通	JR鹿児島本線(市外)、西鉄天神大牟田線、西鉄柳川駅他５駅)、 国道208・385・443号、有明海沿岸道路		
観光資源	川下り、北原白秋生家、御話、戸島氏邸、中山の大藤、中島の朝市、雲龍の郷、 柳川温泉、からたち文人の足湯		
イベント	柳川ひな祭り・さげもんめぐり(2～4月)、中山大藤まつり(4月)、沖端水天宮崎祭(5月)、 中島祇園祭り(7月)、有明海花火フェスタ(8月)、おにぎえ(10月)、白秋祭(11月)		
特産品	有明海苔、粕漬、鰻のせいろ蒸し、巨峰、いちじく、いちご、なす、レタス、トマト、 柳川まり、さげもん、柳川凧、柳川神棚、蒲池焼		
日本一	市内を巡る堀割の総延長(930km)		

※出典：東洋経済，『都市データパック 2010 年版』，2010　の内容を抜粋・再編集して作成

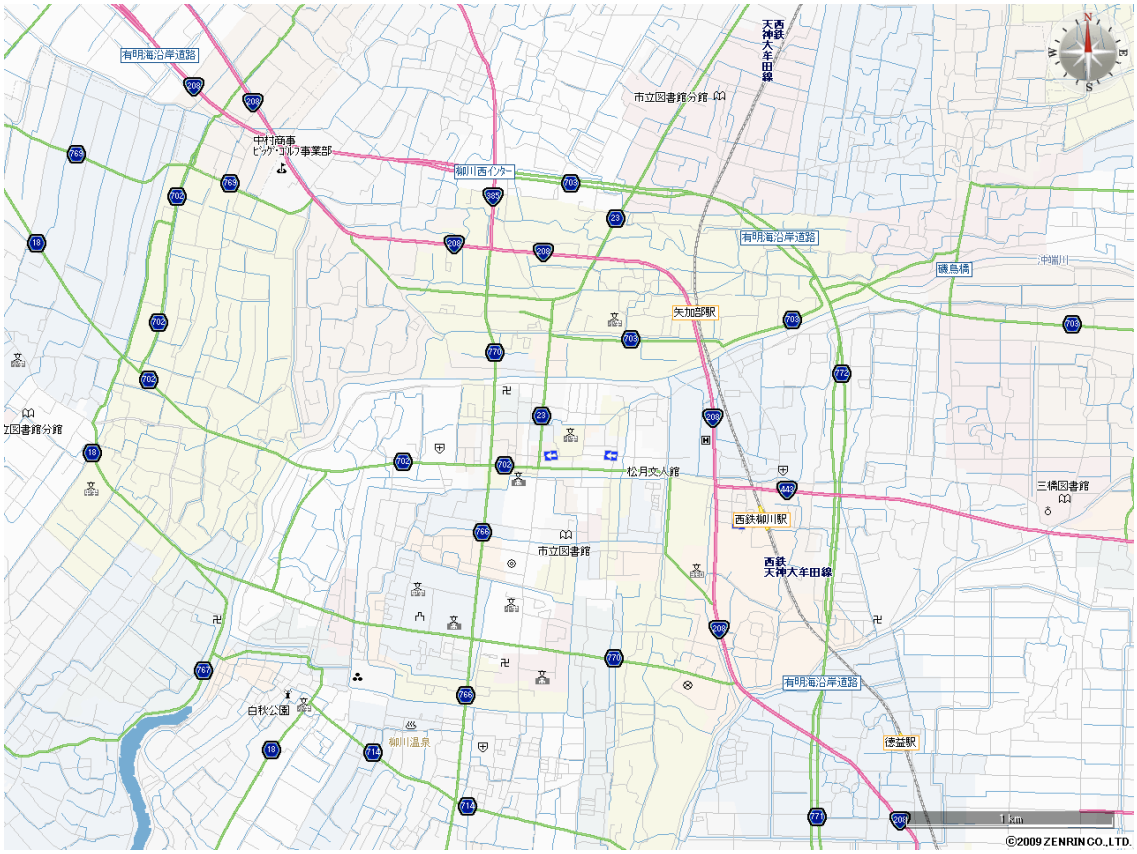

図-3.5：柳川市の周辺地図

柳川市は，福岡市地下鉄空港線と西鉄天神大牟田線(特急)を乗り継ぎ，約１時間の位置にある．市内には総延長 930km の水路（堀割）が巡っており，香取市（千葉県），近江八幡市（滋賀県），松江市（島根県）等と共に水郷として知られている．現在では，堀割は柳川の貴重な観光資源として認知・活用されており，さげもんめぐりや白秋祭など，堀割を使ったイベントが数多く実施されている．川下りの際には，船頭が舟唄を披露してくれる他，コースから見える位置に銅像や石碑が建てられ，船頭がそれを解説することで，観光客は柳川の歴史を知ることができる．また，コースの途中には，川下り客向けに飲料品を販売する商店もある．

柳川市の発行する『堀割なぜなぜ物語』によれば，元々は有明海であった場所が時間をかけて干潟になり，やがて現在の柳川の国土が形成された．2000 年前からそこに人が住み始めたが，元々が海であることから，川がなく，塩害，洪水，水不足に悩まされた．これに対応するために，溝を堀り，その土を盛り上げて水田を作るとともに，溝に貯まった雨水を利用して農作物を栽培した．この溝が堀割の原型となった．やがて堀割では魚も捕れるようになり，貯まった泥は肥料に活用した．毎年のように泥を肥料として堀り出すことで，堀割は徐々に深くて広いものになった．平安時代には，碁盤の目のように水路が整備された．江戸時代には，軍事的な利点から，城堀の水門が整備され，城下に河川から水を引く工事をした．これに伴い，飲料水，農業，舟のために，多くの水路が整備された．以後，堀割は柳川の生活に密着した存在として利用され，変化を遂げてきたとされる．

写真-3.5　柳川の街並み

写真-3.6　川下り観光の様子

写真-3.7　堀割沿いに設けられた商店

写真-3.8　川下りコース沿いに配置された石碑

3.2-2　調査方法

調査は文献調査及びヒアリング調査を実施した．文献調査では，柳川市役所の観光課と水路課に資料提供を依頼した．依頼に応えるかたちで，現地調査の際に資料や書籍を提供してもらい，観光客数の変動や柳川ブランドを取巻く動きを知る参考とした．また，同時にヒアリング調査も行った．

3.2-3　柳川ブランドの変遷

柳川ブランドを取巻く出来事と観光客数の経年変化を図-3.6 にまとめた．

柳川市の入込客数は，統計を開始した 1969 年以来，右肩上がりに増加している．1994 年に限って言えば，入込客数が急落しているが，これは上流のダム工事に伴い川下り観光が 1 ヶ月間停止していたためである．ただし，1975 年以来，柳川市の宿泊客数はほとんど横ばいである．博多市から日帰り圏内ということもあり，入込客数は獲得するものの，そのほとんどが市内に滞留しないという通過型の観光形態となっている．

観光都市として成長していく初期の段階では，映画「からたちの花」や北原白秋の「大柳川都市計画論」，NHK ドラマ「廃市」等，柳川をイメージ付けるようなメディアへの露出が相次いだ．水路沿いには柳が植栽され，1982 年には市の木に制定された．それに付随するように水辺の散歩道が整備されていった他，当時の国土庁，建設省，環境庁の事業メニューを次々に獲得し，堀割のまちとしての整備を進めた．また，観光客の増加に合わせるように川下り観光を営む企業・部署が次々に設立された．環境面では，1962 年以来，堀割の美化運動が続いている．

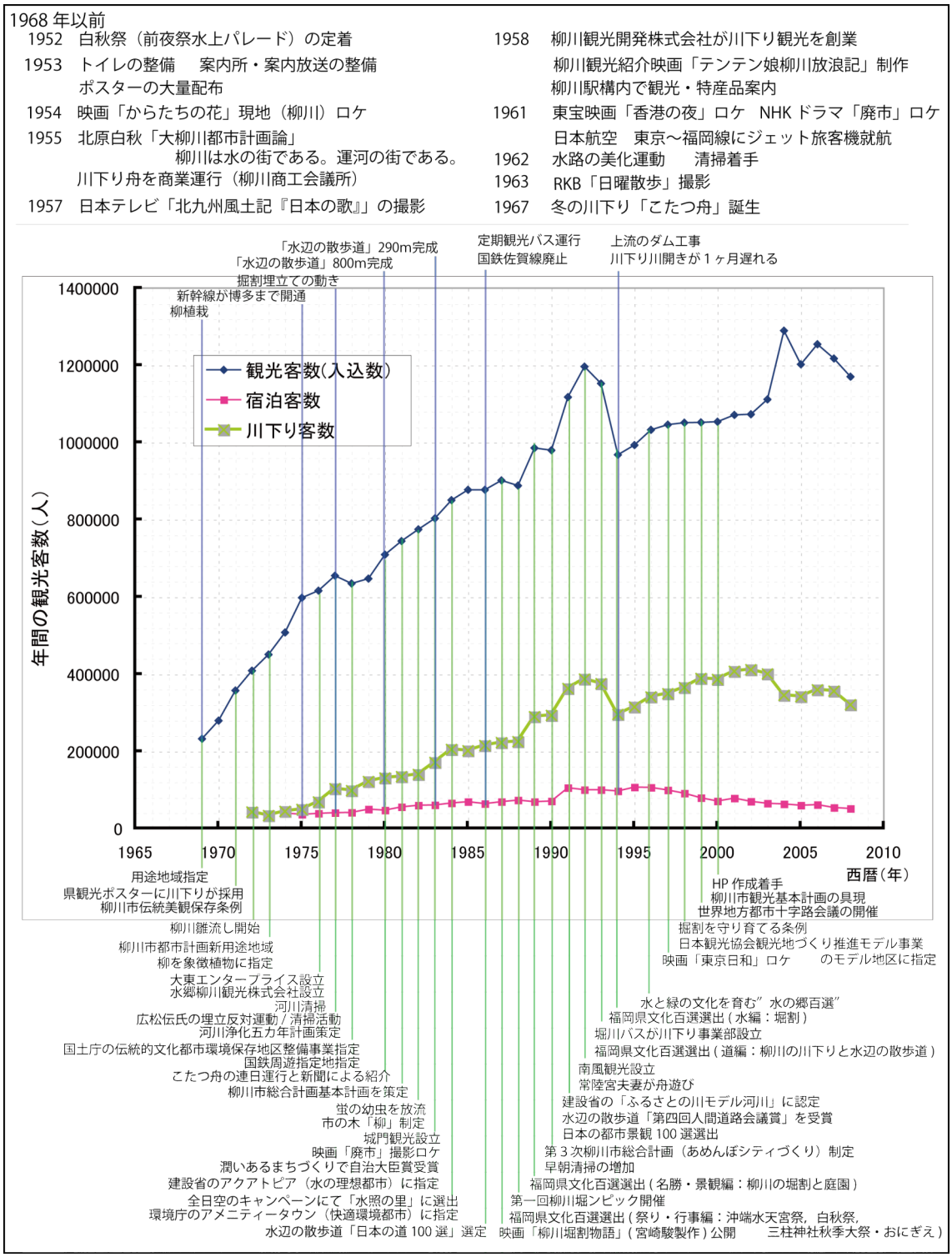

図-3.6　柳川ブランドを取巻く出来事と観光客数の経年変化

3.2-4　柳川のイメージ認知/保全プロセス

柳川のイメージを変化させた社会・潜在的要素とその構造を図-3.7 にまとめた.

飲料水として活用していた堀割の水が原因で，赤痢やコレラが流行した柳川市では昭和初期になって上水道が普及するなど都市化が進んだ．これによって堀割の水を利用する機会が減り，水門を閉めて堀割の掃除をする堀干しなど，堀割の水を浄化する機能を持った習慣がなくなっていった．これにより，ヘドロが堆積し，廃水やゴミが堀割を汚した．流れは滞留し，さらに水質を悪化させる悪循環を生んだ.

一方，川下りは，元々は文化人の舟遊びや祭事での舟競争であった．これが映画「からたちの花」をきっかけに注目を集め，北原白秋の「大柳川都市計画論」も追従したことで，柳川の堀割・川下りが認知されるようになり，川下り観光が成立した.

1970 年頃から，ビニール袋の普及等により，堀割の汚染はさらに進む．一部では，川下り観光を促進し，船頭の意識改革をすることで，ゴミ捨てに対する監視効果が働き，川沿い住民の意識変化も進むのではないかと考えられた．しかしながら，大きな成果はなく，1960 年代後半には，ごみの堆積により，町中に舟が入れないような状態になった．このため 1977 年には，堀割の埋め立て計画を推進する都市下水路係が新設され，堀割埋立計画が具現化しかける．しかし，この計画の責任者である都市下水道係長 広松伝氏の熱心な啓蒙活動により，本計画は撤回され，堀割を地域資源として活用する方向に決まる．この活動は，市民の堀割に対する関心を高め，後々の清掃活動の増加に繋がる．また，このエピソードが映画「柳川堀物語」[iii-2] として取り上げられたことで，柳川の堀割はさらに広く認知されるようになる.

堀割は他の水路と異なり，流れがほとんどない．また，現在でも柳川市の下水道整備は途上段階であり，一部の廃水は堀割に流入している．このため，観光客側としても汚い印象を持つことが多い．特徴的な資源により，多くの映画やテレビドラマのロケ地として，観光客からの認知・関心を集める一方，堀割の水質汚染問題は現在でも解決したわけではなく，観光客の持つイメージとのギャップが生じている状況にある.

なお，柳川市では，福岡まで直通の新幹線が開通したことに伴い，学生宿泊客数が急増している．一方，宿不足が指摘されており，モータリゼーションの進展に伴う観光客の滞留性の低さも目立つ. 近年の景気悪化もあり，客単価の低下が柳川の観光的課題と言える.

写真-3.9　堀割に流入する廃水

iii-2　柳川堀割物語：堀割再生運動を描いたドキュメンタリー映画．高畑勲監督・脚本，宮崎駿製作.

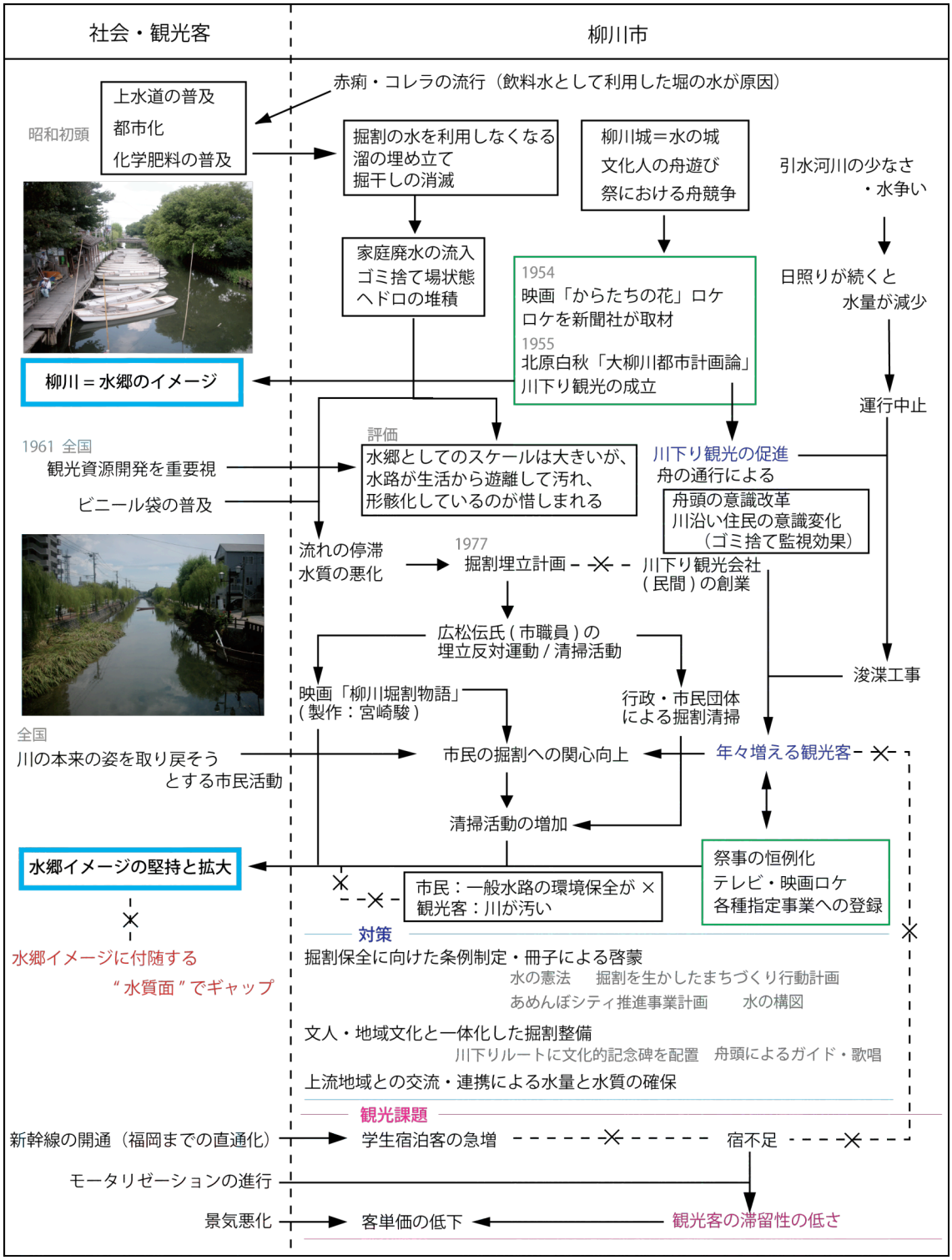

図-3.7　柳川のイメージを認知・変化させた社会的・潜在的要素とその構造

３．３　ニセコ山系

3.3-1　ニセコ山系の地理と概要

北海道ニセコ山系（倶知安町，ニセコ町，岩内町，共和町，蘭越町）の概要を表-3.3，周辺地図を図-3.8 に示した．

表-3.3：北海道ニセコ山系を管轄する自治体の概要

管轄する自治体	北海道倶知安町・ニセコ町・岩内町・共和町・蘭越町	
面積	倶知安町　:261.24　㎢ ニセコ町　:197.13　㎢ 岩内町　:70.634　㎢ 共和町　:304.96　㎢ 蘭越町　:449.68　㎢	人口：倶知安町　:16176　人 ニセコ町　:4669　人 岩内町　:15744　人 共和町　:7112　人 蘭越町　:5802　人
交通	倶知安町	JR 函館本線 (比羅夫駅、倶知安駅)、国道 5・276・393 号
	ニセコ町	JR 函館本線 (ニセコ駅)、ニセコヘリポート、国道 5 号
	岩内町	国道 229・276
	共和町	JR 函館本線 (小沢駅)、国道 5・229・276 号
	蘭越町	JR 函館本線 (目名駅、蘭越駅、昆布駅)、国道 5・229 号
観光資源	倶知安町	羊蹄山(支笏洞爺国立公園)、ニセコアンヌプリ、ニセコマウンテンリゾートグラン・ヒラフ、小川原脩記念美術館、北海道スピードパーク、覚王山金剛寺（北海道三十三観音霊場4番札所）
	ニセコ町	羊蹄山(支笏洞爺国立公園)、ニセコ積丹小樽海岸国定公園、ニセコアンヌプリ、ニセコ温泉郷（国民保養温泉地）、スキー場(ニセコアンヌプリ国際、ニセコ東山)、有島記念館、ニセコビュープラザ
	岩内町	温泉(朝日、雷電)、美術館(荒井記念美術館、木田金次郎美術館)、三十三観音像、マリンモール、道の駅いわない、碑(夏目漱石在籍地の碑、有島武郎文学碑、日本のアスパラガス発祥の地記念碑、野生ホップ発見の碑)
	共和町	神仙沼、かかし古里館、西村計雄記念美術館、幌似鉄道記念公園、共和町営牧場／原子力環境センター
	蘭越町	ニセコ積丹小樽海岸国定公園、ニセコ温泉郷、貝の館、道の駅(らんこし・ふるさとの丘、シェルプラザ・港) フィッシュ・アンド・名駒、大湯沼、、湯本温泉野営場、リンリン公園、チセヌプリスキー場、コックリ湖、紅葉の滝
イベント	倶知安町	ニセコフリースタイルセッション (4 月)、羊蹄山ひらふ登山口コース開き (6 月)、くっちゃんじゃが祭り・ふれあい広場くっちゃん福祉祭り (8 月)、雪トピアフェスティバル (2 月)
	ニセコ町	ニセコフェスティバル (5～6・9 月)、「七夕の夕べ」花火大会・ニセコビュープラザ誕生祭・狩太神社例大祭 (8 月)・ニセコ町文化まつり (10・11 月)
	岩内町	岩内神社祭り (7 月)、いわない怒涛まつり・北海盆踊り (8 月)、
	共和町	共和かかし祭 (8 月)
	蘭越町	ニセコ山開き (6 月)、一灯園交流祭 (9 月)、港はるの文化まつり (3 月)
特産品	倶知安町	じゃがいも、豪雪うどん、ワイン
	ニセコ町	アスパラガス
	岩内町	たらこ、牛乳、海洋深層水
	共和町	米、らいでんスイカ、らいでんメロン
	蘭越町	米、酒、いちご、トマト、アスパラガス、メロン、馬鈴薯
日本一	倶知安町	湧き水、地価上昇率
	ニセコ町	尻別川（2004 年清流日本一）、日本初のカタカナ町名
	岩内町	アスパラガス栽培の発祥の地
	共和町	大谷地湿原 (日本一のフサスギナの群生地)
	蘭越町	尻別川（2004 年清流日本一）

※出典：1)市町村要覧編集委員会,『全国市町村要覧 [平成21年版]』, 2009 2)倶知安観光協会HP：http://www.niseko.co.jp/
3)岩内町公式HP：http://www.town.iwanai.hokkaido.jp/index.shtml 4)Web Naviきょうわ：http://www.town.kyowa.hokkaido.jp/
5)蘭越町HP：http://www.town.rankoshi.hokkaido.jp/の内容を抜粋・再編集して作成

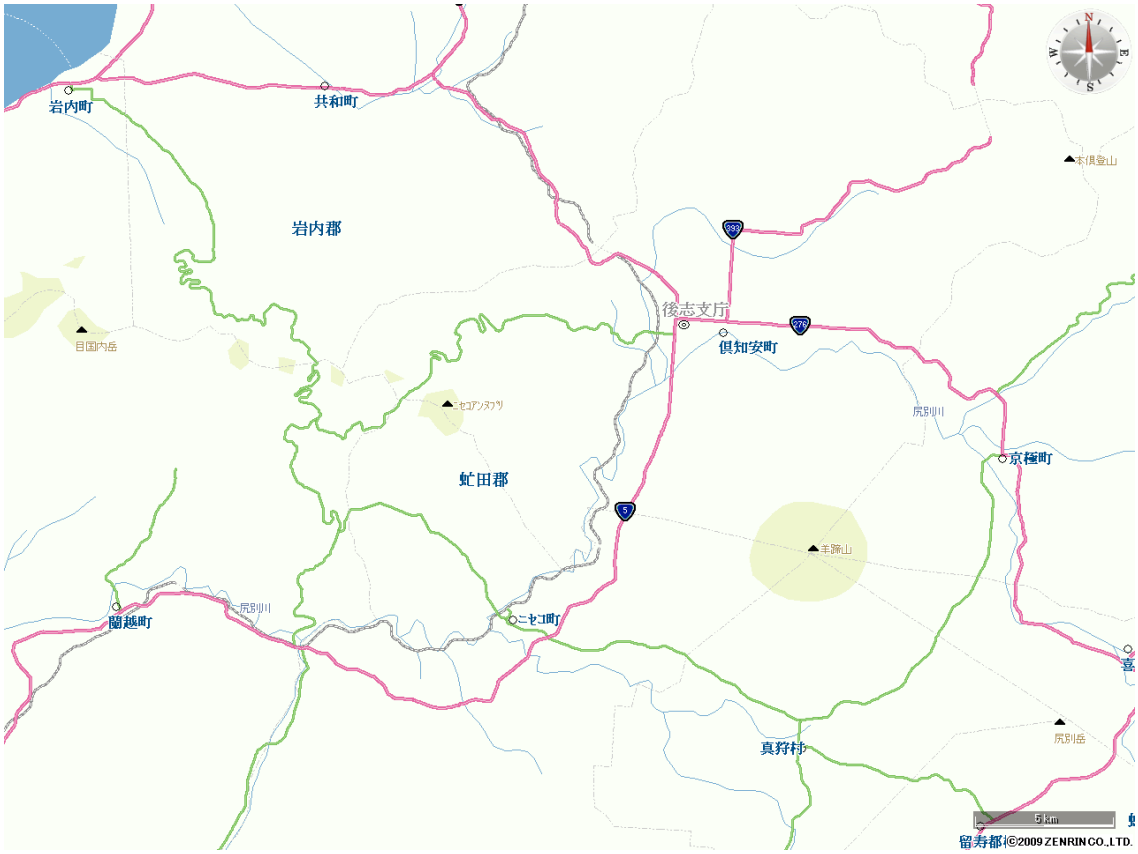

図-3.8：ニセコ山系の周辺地図

ニセコ（倶知安駅）は，札幌駅から在来線を乗り継いで，約 2 時間の位置にある．地域のシンボルである羊蹄山の周囲には，良好な雪質で知られるスキー場が点在し，温泉も豊富であることから，リゾート観光の場として知られている．また，夏場にはラフティング，カヌー，乗馬，ゴルフ，登山等のアウトドアを楽しむ観光客が多い．スキー場に近い市街地には，コンドミニアムやコテージが立ち並ぶ．近年は海外からの不動産投資が増大しており，地価上昇率は 2006 年から 2008 年までは 3 年連続で日本一となった．

オーストラリアからの観光，不動産投資の場として選ばれる背景として，鬼塚は次の 5 点[iii-3]を指摘している．

① 雪質：パウダースノー
② 近さ：欧米に比べ近く，時差がない
③ 異文化性：温泉，食事，文化などを体験できる
④ 安さ：欧米より安いツアー料金
⑤ 季節：オーストラリアの夏にスキーができる

ニセコでは，「通年型アウトドア体験観光のカリスマ」として豪州人のロス・フィンドレー氏を選定し，様々な事業展開を行ってきた．フィンドレー氏の事業活動の成果から，夏期のラフティング観光など，冬季のスキー観光以外の魅力をニセコ地域に付与した．

---

iii-3　鬼塚義弘「ニセコ地域への外国人観光客急増とその理由−世界のリゾートと競争するために−」，『季刊 国際貿易と投資』，Spring 2006/No.63，p.119 より引用

写真-3.10　スキー場から臨む羊蹄山

写真-3.11　スキー場近くの宿泊施設

写真-3.12　道路沿いのコンドミニアム

写真-3.13　開発の進む街並

3.3-2　調査方法

調査は文献調査及びヒアリング調査によって行った．文献調査では，鬼塚義弘「ニセコ地域への外国人観光客急増とその理由-世界のリゾートと競争するために-」や北村倫夫「国内における世界水準のデスティネーション・リゾートの形成に向けて 北海道ニセコひらふ地域を事例として」を参考に現在の地価上昇や外国人観光客の急増の背景を整理した．また，ニセコ町統計資料「数字で見るニセコ」，倶知安町観光振興計画，蘭越町及び倶知安町提供資料をもとに，観光客数の変動やニセコブランドを取巻く動きを知る参考とした．

また，倶知安町役場と蘭越町役場ではヒアリングも行い，ニセコ圏域としての観光動向及び環境保全対策の把握に努めた．

3.3-3　ニセコブランドの変遷

ニセコブランドを取巻く出来事と観光客数の経年変化を図-3.9 にまとめた．

倶知安町の入込客数のピークは 1990 年であり，当時の好景気や北海道ブームを反映する結果となっている．その後，バブル崩壊とともに，入込客数は減少し，その後は微増を続けている状況にある．グラフ的にはほぼ横ばいに見えるが，観光客数の内訳としては，2002 年以来外国人観光客の数・割合が上昇している．

ニセコ町も 1990 年代初頭に入込客数のピークを迎えるが，ほぼ横ばいの推移となっている．また，2002 年頃から外国人観光客が増加しているが，その伸びは倶知安町に比べると小さい．一方，1999 年を境に，夏期の観光客数が冬季の観光客数を上回るようになった．これは，観光カリスマに選定されているロス・フィンドレー氏がラフティング観光を広めた影響が大きい．

ニセコ山系全体としては，1996 年以降入込客数が増加した．倶知安町とニセコ町の入込客数が横ばいであることを踏まえると，蘭越町，岩内町，共和町を訪れる観光客数が増加したことを意味する．この３町の個別の入込客数は，統計開始時期が最近であり，詳細な検証は難しいが，ニセコ山系観光連絡協議会等が大都市圏においてパンフレット配布などの PR 活動を展開した効果が，圏域全体として表れている．また外国人向けの宿泊施設（コンドミニアム等）の建設は，主に倶知安町で進んでおり，ラフティング観光を生み出したニセコ町も含め，圏域内での協力体制と役割分担が顕著になりつつある．

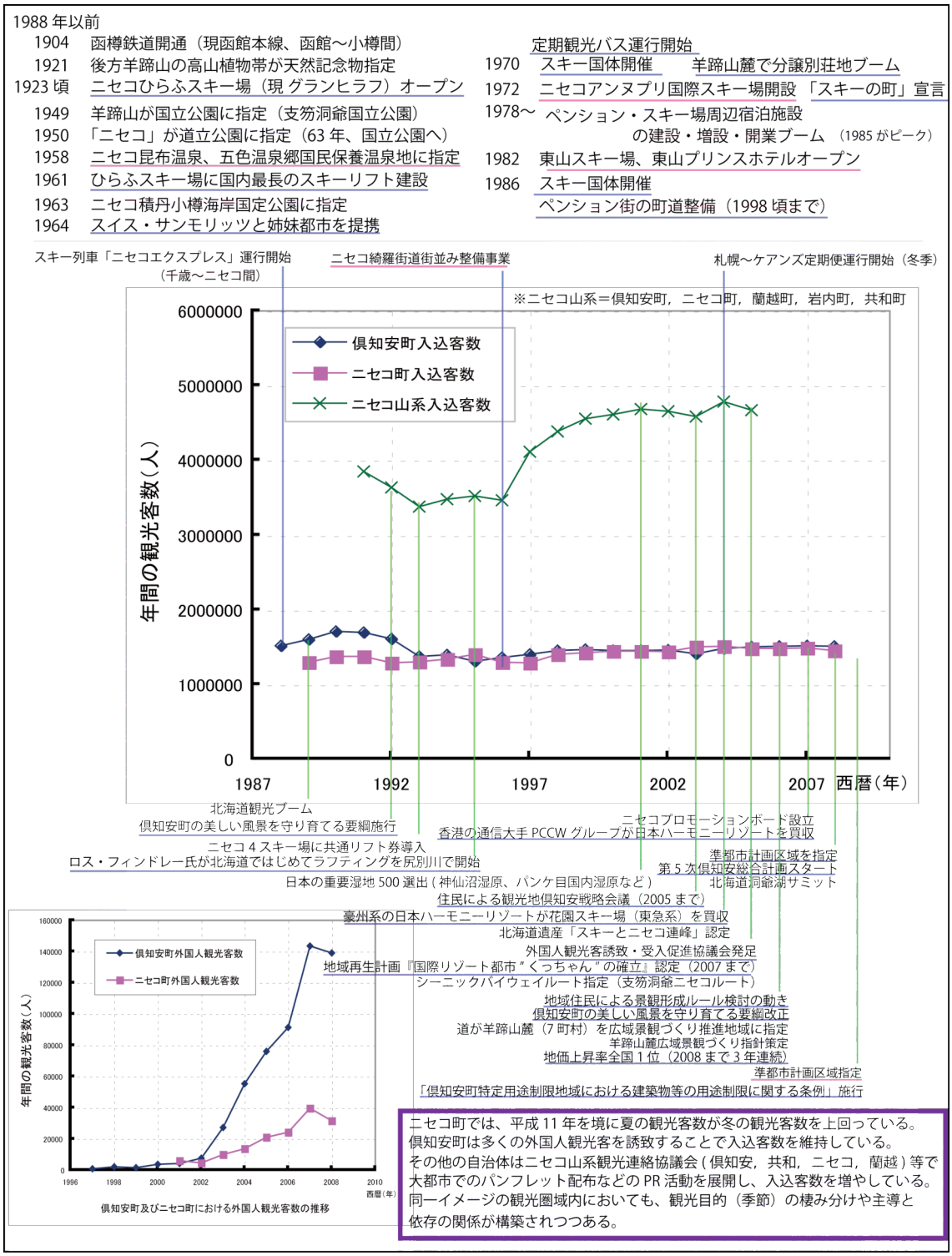

図-3.9　ニセコブランドを取巻く出来事と観光客数の経年変化

3.3-4　ニセコのイメージ認知/保全プロセス

ニセコのイメージを変化させた社会・潜在的要素とその構造を図-3.10にまとめた．

ニセコは自然条件に恵まれ，雪質の良好なスキー場があることは国内のスキーヤーには，良く知られていた．また，オープンな土地柄から，1970年代後半から，町外や道外から脱サラしたペンションオーナーがニセコ地域に入り，ペンションブームが起きた．北海道観光ブームもあり，経済的に潤った．しかし，時間の経過とともに，バブルの崩壊，北海道経済の低迷，観光客数の減少に転じ，ペンションオーナーのリタイアや代替わりも進んだ．

これを契機に，オーストラリアの不動産会社への土地供給が進むようになる．オーストラリアがニセコの注目するようになったきっかけは，1980年代から1990年代初頭にかけてロス・フィンドレー氏，ロス・カーティ氏，スコット・ウォーカー氏がスキーのインストラクターをニセコ地域において始めたことにある．当時から少しずつ普及し始めたインターネットを用いて，彼らの母国であるオーストラリアに，ニセコの雪質や魅力，及び彼らが起業し英語によるケアが施されている状況が伝えられた．インターネットの口コミで広がった情報は，オーストラリアの住宅バブルやオーストラリアドルの高騰といった好景気にも押され，また，同時多発テロに伴う北米旅行の敬遠や，ケアンズ-札幌間の直行便の就航もあり，ニセコへの観光客急増や不動産投資増大に繋がった．

オーストラリア人観光客は，平均10泊近く滞在することから，キッチンや集合場所（リビング）が必要であり，従来のニセコの宿泊施設ではその需要を満たすことができなかった．このため，新しい宿泊施設の需要が高まり，土地を購入しコンドミニアムを建設後分譲・賃貸するという流れができた．結果，地価上昇率は2006年から2008年までは3年連続で日本一になった．この不動産投資や地価上昇，オーストラリア人観光客の急増は日本国内でも話題となり，マスコミも特集するなどしてニセコの雪質（パウダースノー）に関する認知も高まった．

その後，国内の不動産会社の他，徐々に香港やアジア系の資本が追従し，物件は完成前に完売するような状況が続いた．また，2007年頃を境界として欧米資本から香港・中国系資本に移行しつつあり，一部では乱開発の様相もあると指摘された．

近年，販売価格の下落や土地供給の限界という傾向も見られる．また円高により日本へのスキーツアー料金が高騰していることから，観光客数が激減するという見方もある．このような傾向から，いわゆる“ニセコバブル”の崩壊を危惧する声もある．

乱開発（景観破壊）への対策として，ニセコ町と倶知安町は準都市計画区域を設定（それまでは要綱）した．また，ニセコ観光と不動産の将来に悲観的な見方がある一方，大規模リゾート開発（香港資本）や北海道新幹線の開通も控えており，観光事業がさらに進むのか，衰退を迎えるかは不透明な状況にある．

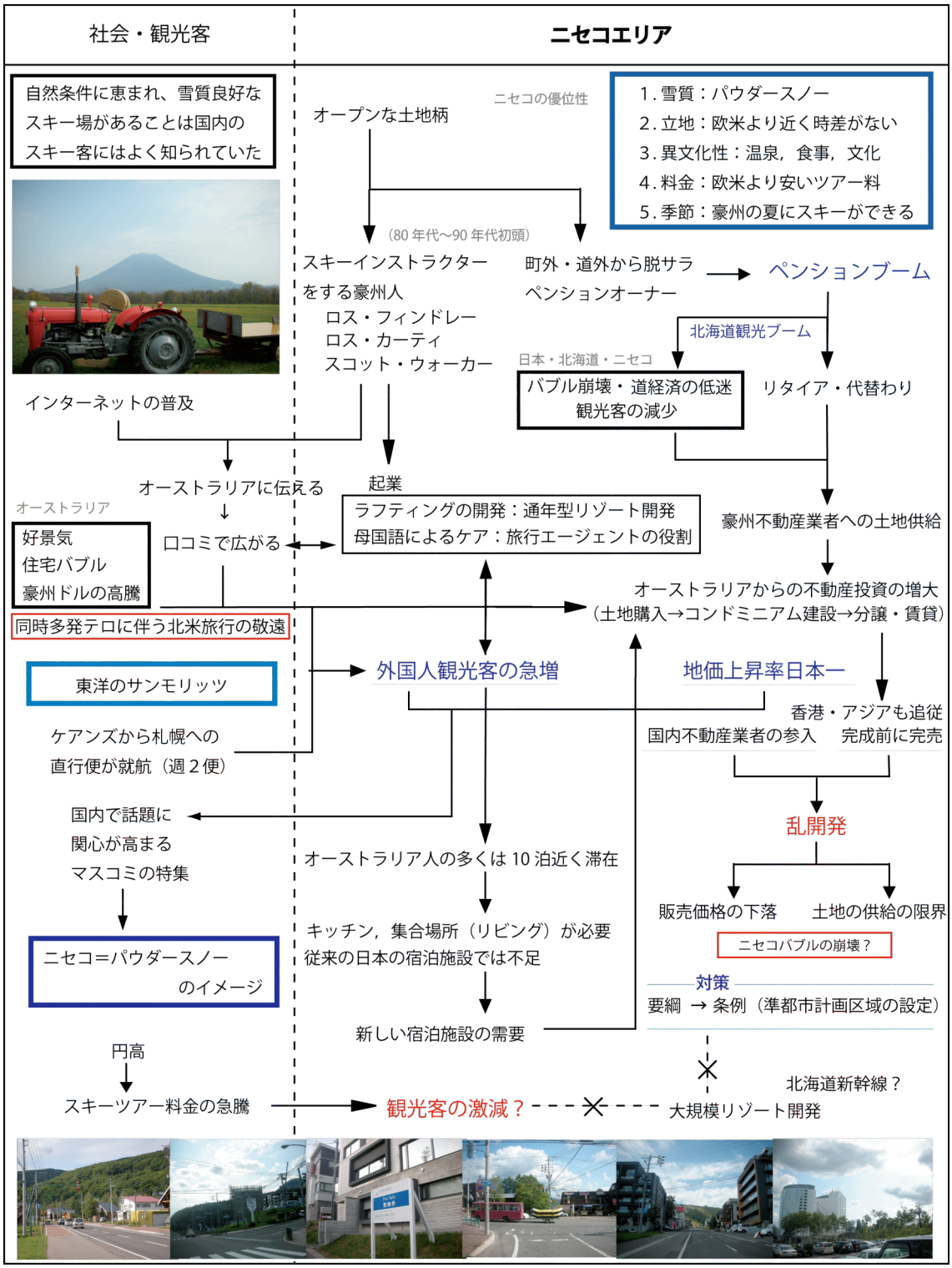

図-3. 10　ニセコのイメージを変化させた社会的・潜在的要素とその構造